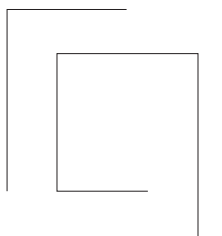
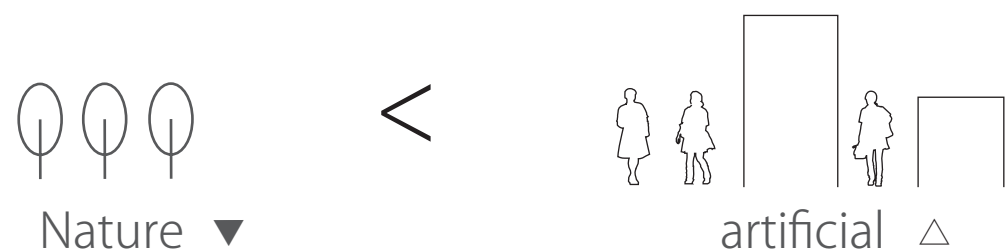




再発見される自然 -artifical nature-

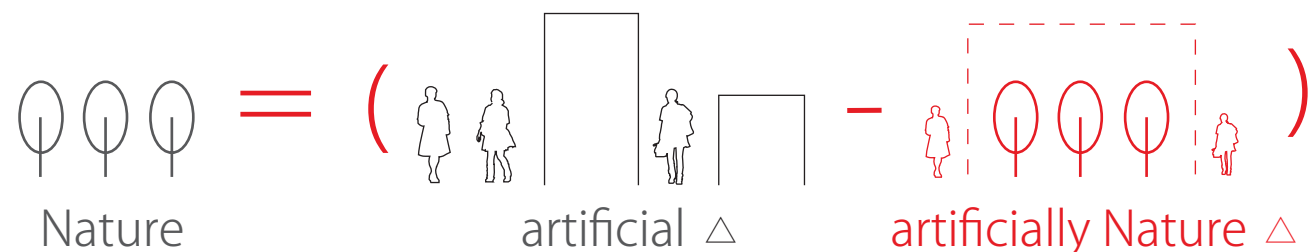
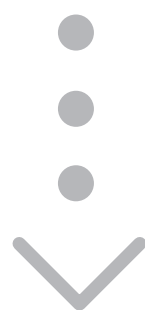


これからの人と自然との関係は、どうなっていくのだろうか？



△ 自然がもつ許容量に対し、人間や人工物が過剰になっている。今後もさらに差が広がっていく。

- ※ artificial - 人工物
- ※ artificially - 人工的な



△ 自然の減少の抑制・エネルギー消費の軽減だけでは追いつかないのならば、テクノロジーを駆使し、人工的な自然をつくることでバランスを取ることは、ひとつの手段。

「森を育てる」ではなく、「森を育てる人を育てる」空間とは？

昔の日本人は、坪庭に植樹をしたり、茶室から見える庭を植物を用いて「見立て」ることが日常的に行われていた。そういった感性をもう一度見直すことはできないだろうか？

この工業団地における「フォレストセイバープロジェクト」は、環境保護を目指すNPO法人の人々と、あらたな技術を持ってモノを生産していく人々との交流の場。

このセミナーハウスを通じて、現代における人工的な自然の育成とは何か？

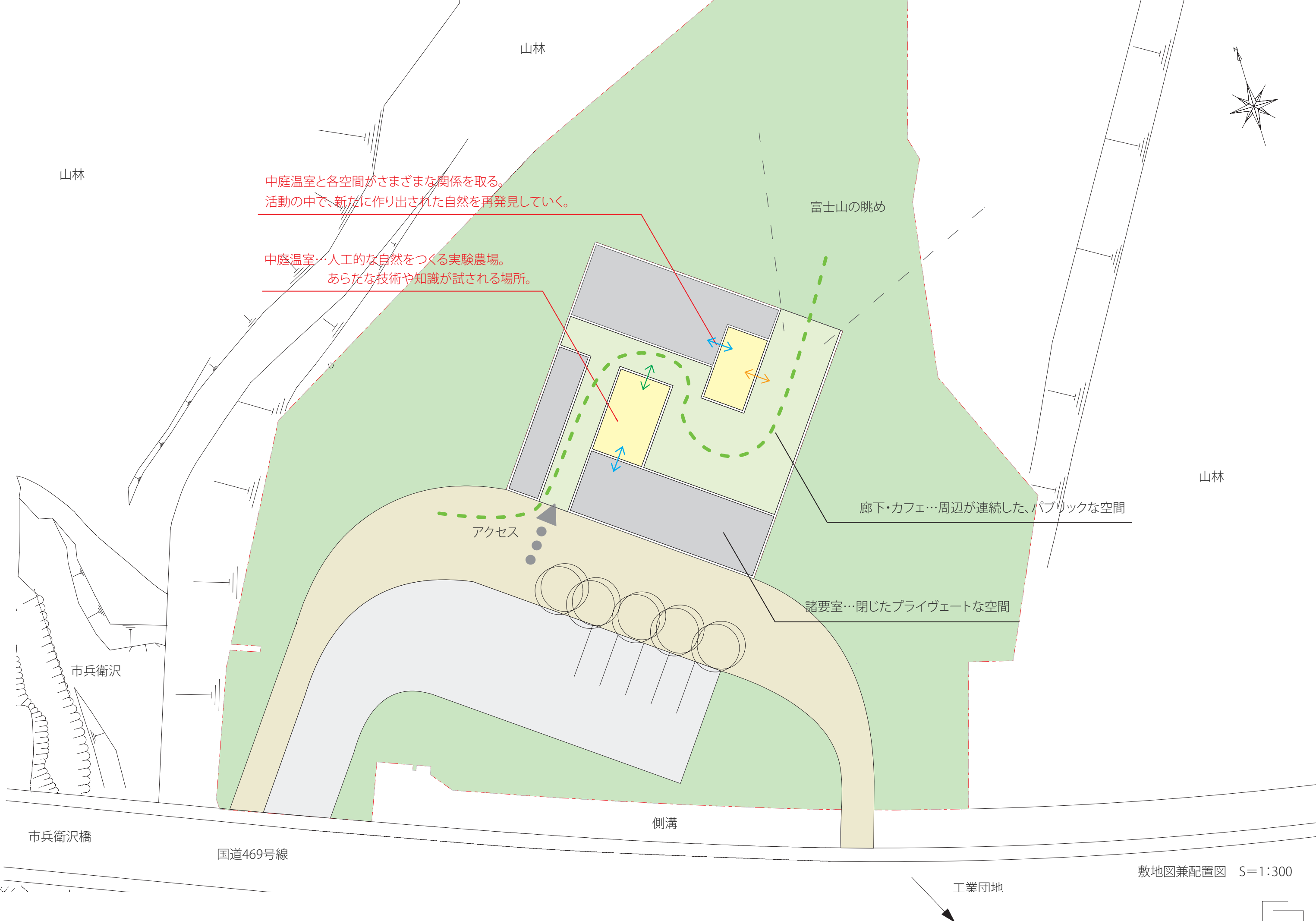
それを成立させる技術とは何か？

またどうしたらそれを楽しめるのか？

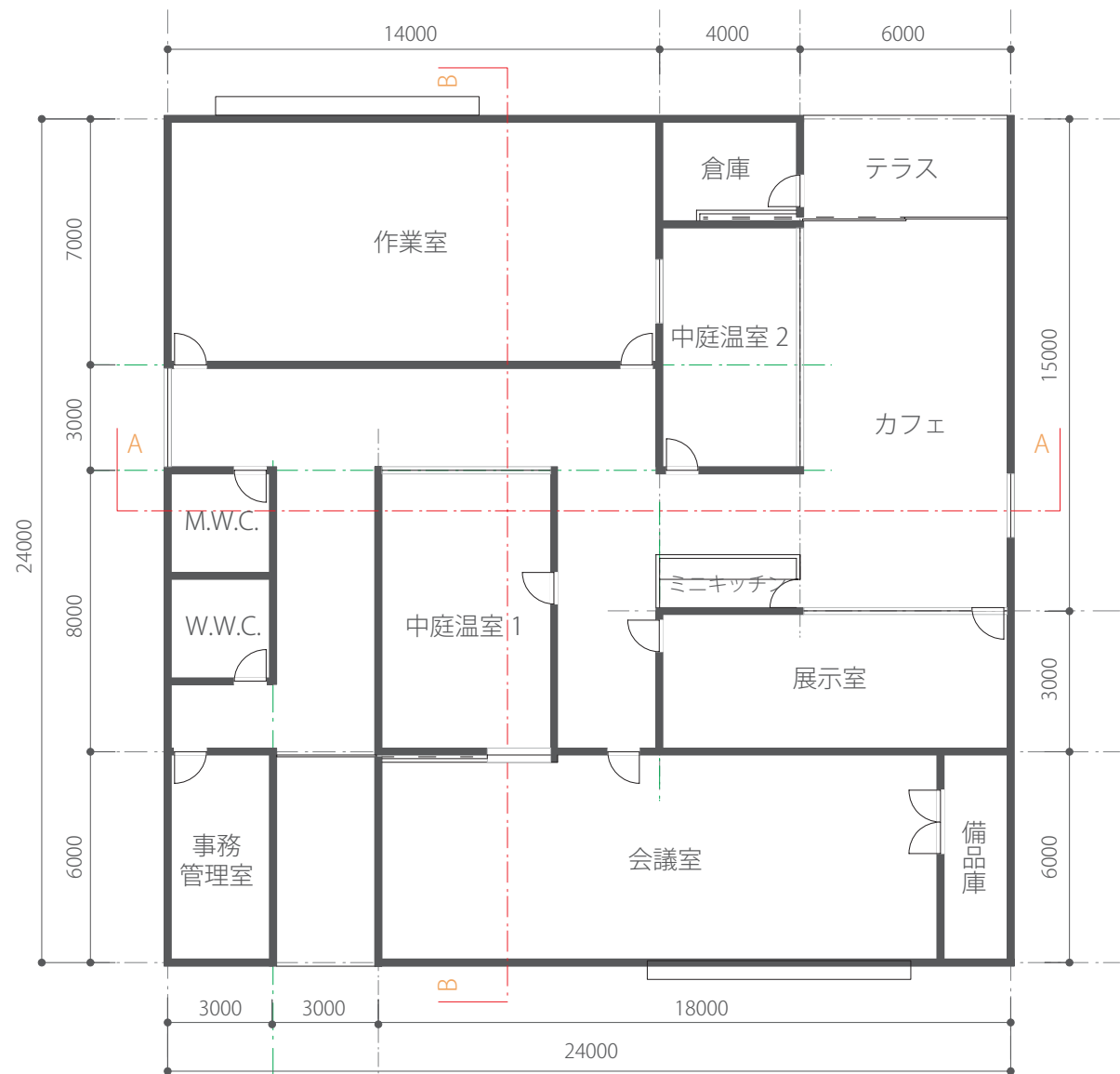
これらを再発見していける場になりうる。

自然の新たな再発見





敷地図兼配置図 S=1:300



1階平面図 S=1:200

建築概要

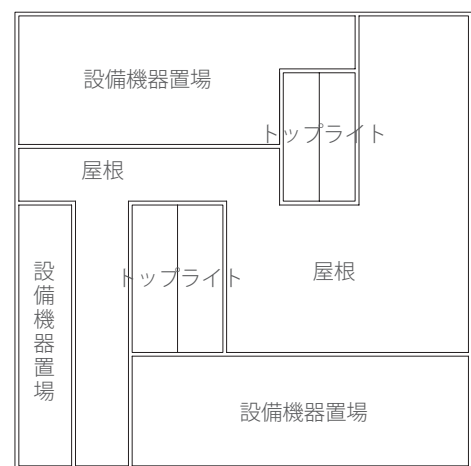
建築面積・延床面積： 576 m²

構造種別：壁式 RC 造

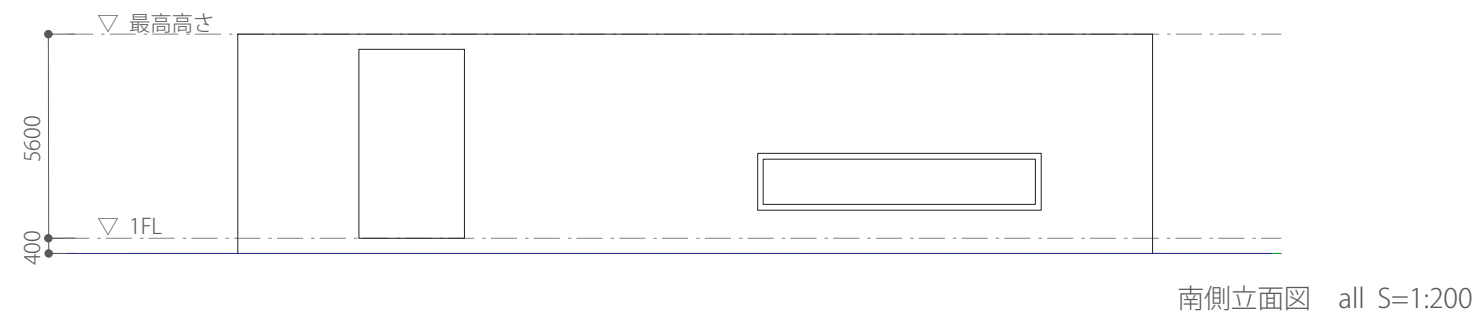
外部仕上：RC + 塗装
スチールサッシ

内部仕上：廊下床 モルタル金こて
壁 RC 打放

諸室：床 タイルカーペット
壁 ビニルクロス



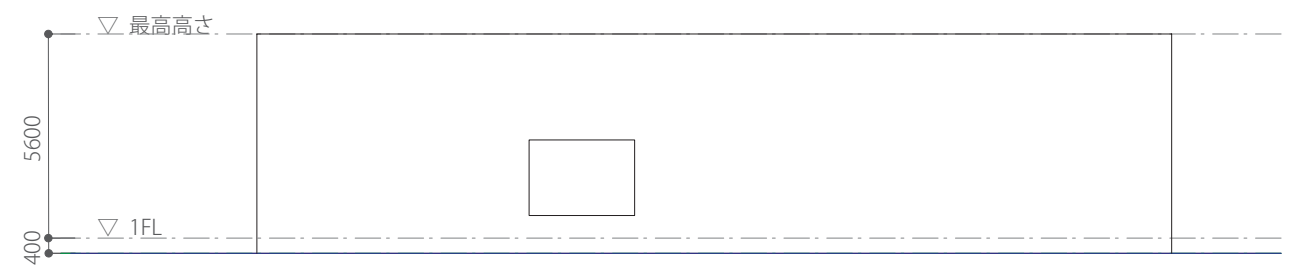
屋根伏図 S=1:400



南側立面図 all S=1:200



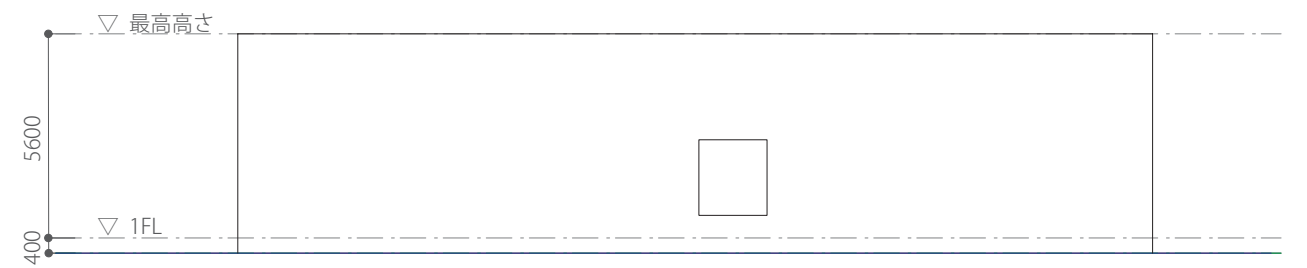
A-A 断面図



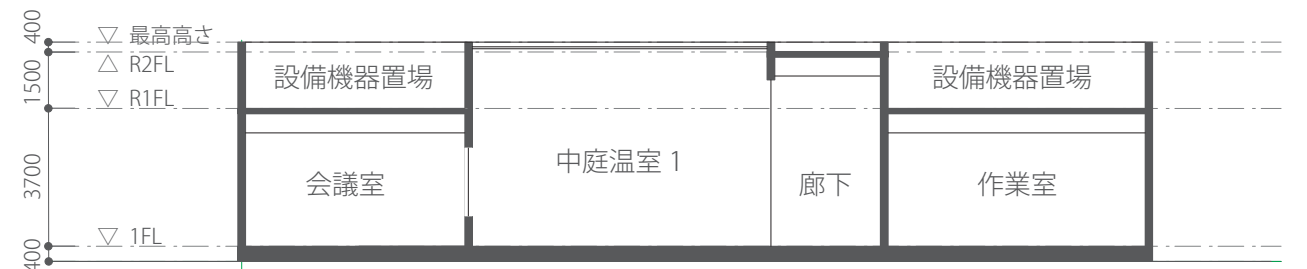
西側立面図



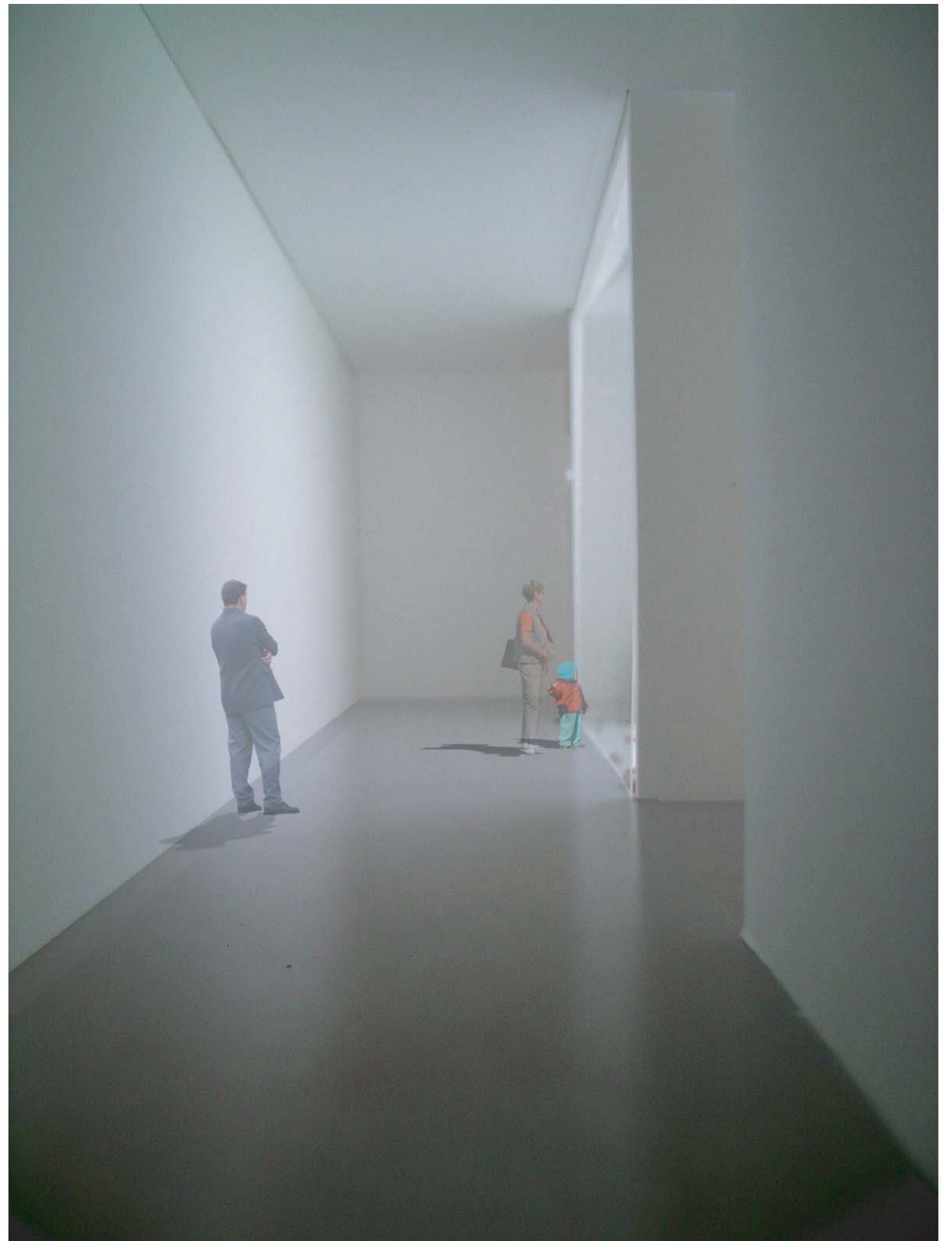
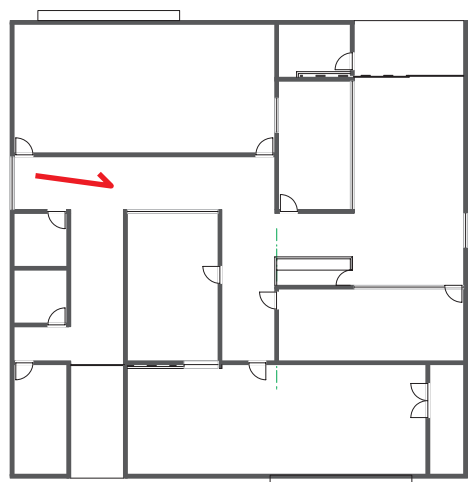
北側立面図



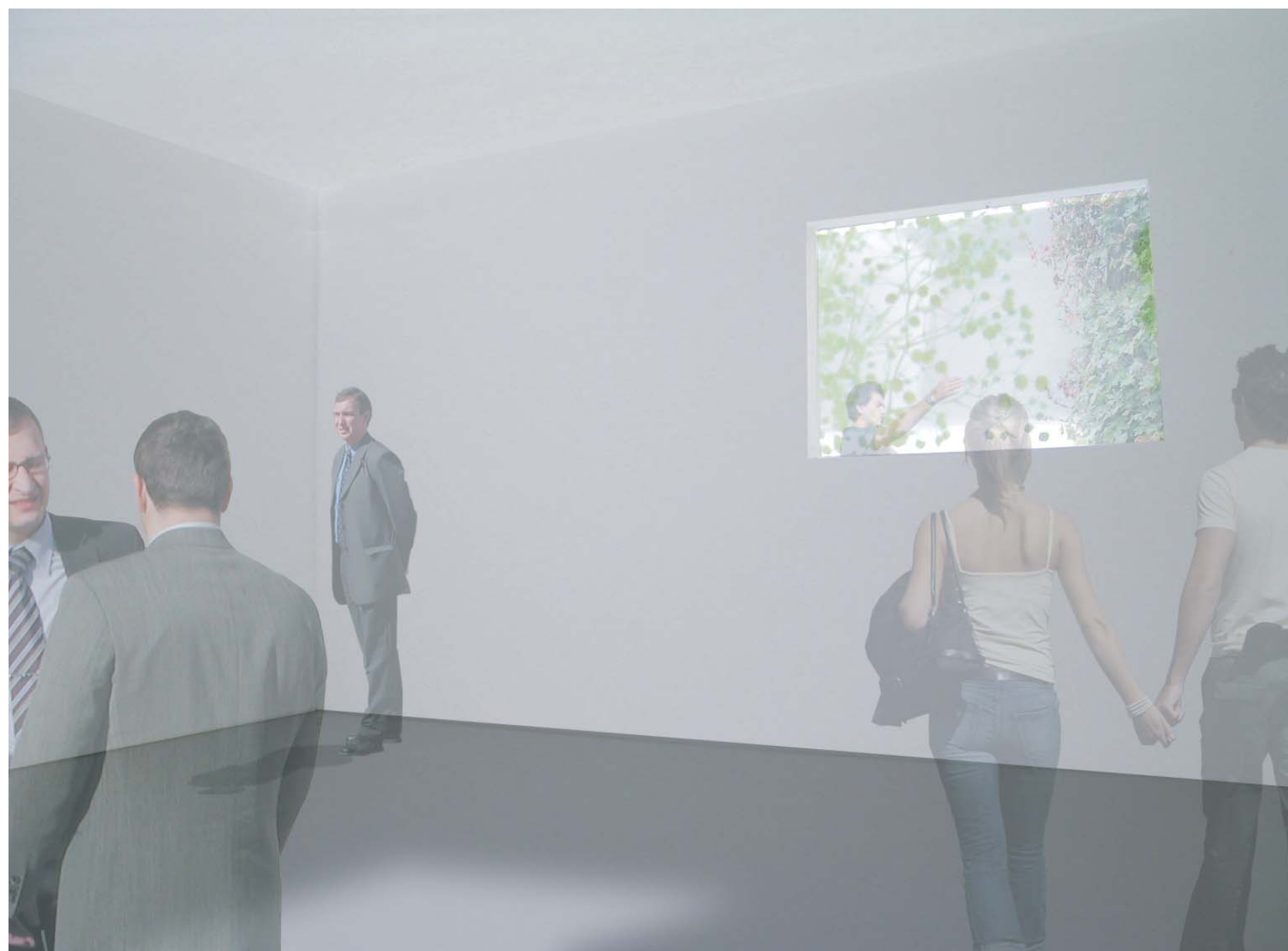
東側立面図



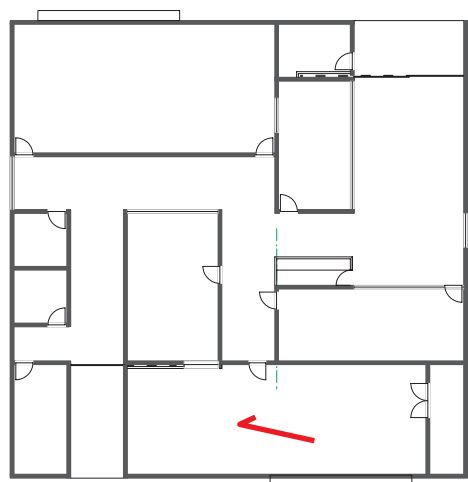
B-B 断面図

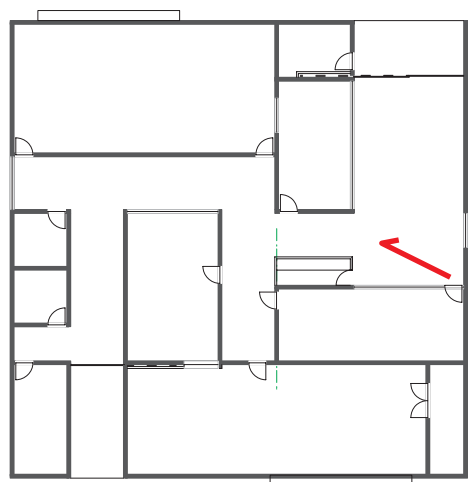


廊下を見る。薄暗い廊下に、展示物のように中庭温室が浮かび上がる。



会議室を見る。中庭温室が額縁のように切り取られ、他の場所とは違った関係性がとられている。





カフェから中庭温室・廊下をみる。廊下の屋に中庭温室の光が見えたり、中庭温室の向こうに、作業室の様子が見えたりと、さまざまな関係性が生まれている。